

(別紙4)

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100159		
法人名	有限会社スイート		
事業所名	ケアパーク和月グループホーム 2階		
所在地	三重県桑名市大字太夫123番地2		
自己評価作成日	平成 28 年 5 月 31 日	評価結果市町提出日	平成28年7月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490100159-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2490100159-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 6 月 20 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桑名市の中心部に近い閑静な住宅地に位置し、南側には桑名市指定天然記念物である大楠があり、北側には国の無形文化財である伊勢太神楽で有名な増田神社がある。四季折々の自然豊かな環境に恵まれており、毎日の散歩には絶好な場所である。同敷地内には、小規模多機能ホーム・デイサービスが隣接しており、ご利用者の状態に合わせ段階的に、複合的な支援を行なっています。また、地域の方向けに、認知症カフェや健康ケア教室の開催をしています。事業所の方針は、認知症であってもその人らしく普通の生活を送ることができるよう、入居者自身が参加、活動する自立支援サービスを基本としています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して6年目の事業所で、利用者と職員が地域の行事や清掃活動に参加しており、近隣の住民との関わりが深い。家族の面会も多く、面会時に毎月発行するグループホームだよりを手渡し、利用者の事業所内での様子を伝えている。会話や笑い声がよく聞こえるとても明るい事業所で、利用者の持てる力をさりげなく引き出し、その人らしい生活が送れるように支援をしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく行動目標は入居者の思いを最大限尊重し、その中で自立を目指した支援をしている。職員にも入居者本位という意識を会議等で周知徹底している。	理念は事務所内に掲示しており、職員ミーティングや申し送り時に確認している。利用者の持てる力を引き出し、その人らしさを大切にできるさりげない支援に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や地域の行事等に参加したり、外食や買い物、また毎日の散歩を通じ閉ざされた生活にならないように心がけている。	利用者と職員が地域の清掃活動や行事、夏祭り、地区の防災訓練に参加している。事業所の夏祭りも地域の方が参加している。また、毎朝の散歩時に地域の方と挨拶をしており、地域の方から野菜や季節の花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りなどの催しでは、地域の人々にも参加していただき、入居者との関わりや生活ぶりを周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の推進会議では、家族、市の担当者、地域住民など広く参加していただき、事業所のおよき理解者を増やし、地域に向けての情報公開をしている。	小規模多機能ホームと合同で運営推進会議を利用者家族、自治会長、民営委員、地域包括支援センター、介護高齢福祉課職員が参加し開催している。事業所の状況報告や地域からの報告や提案・意見等を事業に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では毎回、市の関係者が参加している。随時、法令その他連絡事項について、こまめに連絡を取り合い、お互いの理解に努めている。	運営推進会議で市の担当職員や地域包括支援センター職員と情報交換をしている。毎週木曜日に開催している健康ケア教室に事業所職員がスタッフとして関わり、シニアヨガの指導をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において、「身体拘束をしない介護」に取り組んでいる。見守りで対応しているため、出入り口にセンサーを設置し、事故防止を図っている。	不穏な行動があれば利用者の話を聞くようにして、常に見守りながら支援をしている。言葉による拘束がないように利用者への声掛けや指示の方法等職員間で確認しながら支援している。玄関の施錠は夜間のみで、自由に出入り出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修として、資料を用い虐待の種類や起こる要因などの理解を深め、日頃職員との会話のなかで些細な変化にも気づけるように注意を払いながら、意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し、得られた知識を職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時における重要事項説明書や利用契約書の説明に時間をかけ、疑問や不安な点を聞き、お互いに理解、納得したうえでサービス提供が始められるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも家族からの意見を取り入れるよう努めており、ケアプラン更新時にも家族の要望等の記入欄を設け、少しでも反映できるようにしている。	面会時に毎月発行する「ホームだより」を渡し、事業所での利用者の最近の状況を報告している。利用者家族の面会も多く職員と家族との関わりを大切にしており、家族と信頼関係もできている。利用者や家族の意見を事業所運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などについては、その都度聞いていける体制や関係性を作る機会を設けていくことが大切で、可能な限り会話を増やし管理者と全職員で共有している。	職員が気付いたことを申し送りノートに記入している。管理者は申し送りノートの記入事項を活用しカンファレンスで職員の意見等を聞いて意見や提案を事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「職員アンケート」を実施し、職員の率直な意見や要望等をいただき、職員がよりよく働ける環境整備にしようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術については、会議や研修に参加する機会を設け、身につけてもらえる取り組みを行いながら、情報提供は常に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡協議会の研修機会を通じ、他事業所との交流を深め、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、ケアマネ等からの情報をもとに、ご本人が少しでも不安にならないような対応ができるように留意している。入所後は環境が大きく変化するため、信頼関係づくりに重点を置いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时及び入所申し込み時点で、ご家族が抱えている不安や悩み、施設に対しての思いや考えを可能な限り理解し、どう支援していけるかを共に考えていけるよう関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時や入所後においても随時ヒアリングを行い、ご本人、家族を支援していくうえで必要とされる際には、社会資源が有効に使えるように体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わりの中で、一緒に食事作りやおやつ作りなど、ご本人の体調に合わせて共に取り組むことで、支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所申し込みの時点から、共に考えていける関係性を築けるよう努め、ご家族の状況を踏まえた上で、可能な限り協力していただけるような関係づくりを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のこれまでの人生をよく知り、馴染みの人や場所を訪れる機会を設け、慣れ親しんだ環境への関わりを継続して持てるように努めている。	桑名市には昔ながらの寺町商店街があり、そこへ出かけ、パン屋でパンを買うなどしている。また、いつも行っていた床屋や美容院への送り迎えをして、馴染みの場所や人との関わりがもてるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で、食べこぼしや食器の片付けや洗い物を協力してもらっている。散歩や外出時等で車椅子を押してもらうなど、助け合える瞬間を大切に支援を行えるように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、家族との関係が途切れることはなく、相談や支援を求めてくることもあり、都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいのか」ということを考えた支援を心がけ、意思表示の困難な方に対し、その方の性格や生活歴、家族から得た情報を踏まえ、本人主体になれるように努めている。	日頃の利用者との会話から、思いや意向を把握するようにしている。意思疎通が困難な利用者は生活歴や家族からの情報を聞いて、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所初期の段階だけでなく、継続的にその人を知るために、ご本人、家族等から性格、生活歴等の情報収集をこまめに行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の都合でご本人の過ごし方を決めてしまわないように、状態を把握しながら本人の意思を確認しながら、無理強いのないような生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に、ご本人の今必要なニーズの把握に努めている。また、実践に反映できるよう、ご家族やかかりつけ医に連絡、相談をするようにしている。	ケースカンファレンス前に担当者が作成した意見を参考に話し合い、それを基本に介護計画を作成している。3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様々な気づきを「申し送りノート」や「気づきシート」にて職員間で情報を共有し、常に話し合い、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族が様々な要望や意見が言える雰囲気づくりに努め、常に柔軟な支援を心がけている。特にご家族との外出や外泊の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前からの地域とのつながりが途切れる事がないよう、なじみの店に買い物に出かけており、地域の方との関わりを続けていける支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医としており、ご入居者、ご家族が安心して診て頂けるよう支援している。必要に応じて看護師より文書で提出している。	利用者のほとんどが従前からのかかりつけの病院を主治医としており、受診は家族が対応している。体調が悪くなった場合は、看護師に連絡して状況に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調の変化も見落とさず、看護師へ連絡・相談をし、受診の指示を仰いでいる。日中・夜間問わずいつでも連絡ができる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに担当医に情報提供書を作成し、細かな情報を伝えている。入院中もご家族・病院との連絡を密にし、早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化された場合や、終末期の対応について説明を行っている。普段から看護師と医師との連絡を密にし、看取りの時期が来たら、ご家族への説明、同意書を交わし、主治医の指示を仰ぎ、看取り介護を行っている。	入居時に重度化した場合における(看取り)指針を説明している。重度化した場合や終末期に向けたケアについては看護師と医師と家族が話し合い、看取り介護を行う場合は契約書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置しており、定期的に応急処置や初期対応の研修を行っている。看護師にも相談しながら、具体的な方法を教えてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の避難訓練は継続して行っている。車椅子や歩行の不安定な方全員も2階からの避難を実践することができた。	年に2回、併設の3つの事業所合同で、消防署の職員の指導で、火元を替えて火災訓練、避難誘導訓練を実施している。避難経路の確認や担架を使用する訓練、職員が利用者を抱きかかえて階段を降りる訓練を実施した。	緊急用の防災用品と飲料水は準備してあるが、非常用食料(アルファ米等)の備蓄とヘルメットやヘッドライト等の緊急時に必要な物品の整備を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者のプライドを傷つけないように、その方に合わせた声掛けを行っている。状況に応じて小声で話したり、個別で離れたところで話をするような配慮をしている。	入室時のノックやトイレ誘導時の声掛け等、利用者のプライバシーを損なわないように配慮している。また、利用者に合わせた目線や声のトーンで話掛けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者が自己決定できる声掛けを心掛けており、指示的な言葉ではなく、疑問形で声掛けをするように職員全員で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事等すべてにおいてご入居者のペースに応じて対応している。外出・外食も全員ではなく個別対応を行い、ゆっくりできるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には、自由に衣類の選択や、お肌のお手入れ、化粧をして頂いている。できない方も、声掛けをしながら、季節に合った衣類を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の献立は決まっているが、材料を見ながら変更もしている。材料切り・調理・盛り付け・配膳・片付けまでご入居者と職員と一緒に協力しながら行っている。	献立と食材は業者に委託している。調理をしたり、盛り付けたり、配膳をしたり、下膳や後片付けしたり、利用者それぞれの能力に応じて手伝いをしている。利用者と職員が会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・食事形態に関しては、ご入居者に応じた物を提供している。水分は摂取が難しい方には、お好きな時間に、お好きな物を提供し、摂取の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方については、毎食後口腔ケアを行っている。義歯外しの拒否が強い方にも、声掛けで外す事が出来ている。自立の方については、その方の生活習慣に合わせた口腔ケアを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方でも、日中尿意・便意を訴えられた場合は、2人介助にて、ポータブルトイレを使用しトイレでの排泄の継続を支援している。尿意・便意が無い方も時間を決めて誘導を行っている。	声掛けをして出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援をしている。立位困難な利用者は介助によりトイレでの排泄に心掛けており、日中は利用者全員がトイレを使用している。夜間のみ紙おむつやパットを使用している利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、日常生活の中でも腹部マッサージを行っている。排泄チェック表を活用し、状況に応じては服薬により調整を行い、職員全員で把握しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本入浴は午後からとしており、ご本人の希望に応じて毎日入られる方もみえる。ご入居者の体調や汚染により、シャワー浴のみ行って、臨機応変に行っている。	週に2回から3回、午後3時過ぎから入浴をしている。季節感のあるゆず湯・菖蒲湯、利用者の希望する入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。体調等により、シャワー浴のみの利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人やご家族の希望を尊重し、ご自宅で使っていた布団や毛布を使って頂いている。居室はご本人が使いやすい様にタンス等持って来て頂き、なるべくご自宅と同じように使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては職員全員で細心の注意を払っており、一人だけではなく多くのスタッフのチェックを行っている。薬の種類や副作用についても職員全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に新しく入られたご入居者は、ご家族からのバックグラウンドアセスメントや、ご本人から話を聞き、その方に応じた個別の対応を行っている。散歩がお好きな方は、時間の許す限り一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそって買い物や外出を支援している。車椅子の方でも、スタッフを調整し、個別の支援を行っている。ご夫婦(車椅子使用)も水入らずでの外出もすることができた。	毎朝事業所周辺を散歩している。季節ごとの花見、買い物や外食に行っている。利用者の意見を聞きながら、地域の祭りや買い物等の外出について支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方については、ご自分で支払をして頂いている、財布は最終事務所・金庫に預かせて頂き、管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された場合は、電話をして頂いているが、ご家族が拒否された事があり、職員がご家族に話をさせて頂き、時間帯等を考慮し納得して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設感を感じないよう、木目調で落ち着いた空間をつくっている。過度な飾り付けはせず、季節に応じた花や、期間を区切った飾り付けを行っている。BGMも唱歌や落ち着いた曲を流し、自然と口ずさむ光景がみられている。	廊下や居間兼食堂がとても広くてゆったりしており、ソファでゆっくり寛げるようになっている。廊下の奥に壁掛けのテレビと大きなソファが置いてある談話コーナーがあり、面会の家族とゆっくり話ができるようになっている。また、季節の花が飾られてあり和やかさが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフから離れ見えない場所に、ソファを置き談話コーナーとして活用して頂いている。自然と2~3人の方が集まり、おしゃべりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、馴染みのある物を持って来て飾って頂き、個性のある居室で過ごして頂いている。毎朝、出来る方は掃除もして頂き清潔にして頂いている。	居室はとても広く、清掃も行き届き清潔感がある。押入れに衣類等が整理してあり、利用者が自宅から持参した小物入れやタンスが置いてある。家族の写真等を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同スペースの机の配置を変えて、ご入居者一人ひとりに応じた場所で過ごして頂いている。車椅子や歩行器も通りやすい様に場所を確保している。		